



トラギス科ホムトラギスの紀伊半島と石垣島からの分布記録 および標徴に関する新知見

深谷真央¹・松尾 怜²・和田英敏^{3,4}

Author & Article Info

¹ 東京大学大学院農学生命科学研究科 (東京)
mahirofukatani@g.ecc.u-tokyo.ac.jp (corresponding author)
² 和歌山県水産試験場内水面試験地 (紀の川市)
³ 神奈川県立生命の星・地球博物館 (小田原市)
⁴ 東京大学総合研究博物館 (東京)

Received 30 September 2024
Revised 08 October 2024
Accepted 09 October 2024
Published 10 October 2024
DOI 10.34583/ichthy.48.0_22

Mahiro Fukatani, Rei Matsuo and Hidetoshi Wada. 2024. First records for *Parapercis randalli* Ho and Shao, 2010 from Kii Peninsula and Ishigaki-jima island, Japan, with notes on the identification of the species. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 48: 22–27.

Abstract

Two (85.6–105.4 mm SL) and nine (48.9–83.4 mm SL) specimens of *Parapercis randalli* Ho and Shao, 2010 (Pinguipedidae) were collected from the southern Kii Peninsula and Ishigaki-jima island, Japan, respectively. This species was previously known only from the Osumi Peninsula, Osumi Islands and Ryukyu Archipelago, Japan and southern Taiwan based on a total of eight registered specimens and unregistered individuals. Thus, the present specimens, described in detail herein, represent new distributional records for the respective waters and the northernmost record of the species. Several diagnostic characters of the species were reassessed as follows: pored lateral-line scales 52–55 (usually 52 or 53); scales from the origin of lateral line to the origin of dorsal spine 5 or 6; circumpeduncular scales 22–24 (usually 24); five reddish ‘V’ or ‘Y’-shaped saddles on dorsal surface when fresh; yellowish crescent-shaped mark on pectoral base (not reddish elliptic mark) when fresh; no remarkable black spots on dorsal surface; small black spots usually present above operculum; a black spot on the front part of dorsal spine; black spots on the center of caudal fin. The habitat of the species is estimated to be sandy or gravelly bottoms scattered around reefs at depths of approximately 40–150 m based on bycatch fishes and fish finder data.

トラギス科トラギス属 (Pinguipedidae: *Parapercis*) は現在約 90 有効種が認められる本科最大のグループである (Fricke et al., 2024). 本属に含まれる種の多くは底生性で、砂泥底や礫底あるいはサンゴ礁周辺に棲息する

(Randall, 2001; Randall et al., 2008). このうちホムトラギス *Parapercis randalli* Ho and Shao, 2010 は台湾南部から釣獲された 4 標本に基づき新種記載され、のちに与論島から釣獲された 1 標本に基づき日本初記録として報告、標準和名の提唱がなされた (日比野ほか, 2013). それから現在まで、本種の記載を伴う報告は鹿児島県内之浦湾産の 1 標本に基づく松沼ほか (2017) と台湾南部産の 1 件の追加標本を図鑑中で報告した Ho (2019) に限られ、本種の形態や生態について現状十分に理解されているとは言い難い.

2023 年から 2024 年にかけて、和歌山県南部にあたる紀伊半島潮岬沖から 2 個体、沖縄県石垣島沖から 9 個体のホムトラギスが釣獲された. 紀伊半島産標本は北限記録かつ本州初記録、石垣島産標本は八重山諸島からの初記録となる. これらの標本を精査したところ本種の識別的特徴について新たな知見が得られ、また採集時の状況から本種の棲息環境が推定されたため、ここに詳報する.

材料と方法

本研究に用いた標本は東京大学総合研究博物館 (ZUMT) もしくは神奈川県立生命の星・地球博物館 (KPM-NI) に、生鮮時の写真は各機関の画像資料データベース (ZUMT および KPM-NR) に登録されている. 個体は採集後ただちに氷冷麻酔し、10% ホルマリン中で展鰭を行って水槽中で生鮮標本の撮影を行った. ただし石垣島産の 9 標本については一度冷凍を経て、解凍後に展鰭、撮影した. すべての標本は撮影後、10% ホルマリン水溶液中で固定し、水洗して 70% エタノール中に保存した. 標本の計数と計測は基本的に Randall et al. (2008) に従ったが、背鰭棘長については日比野ほか (2013) に従って第 4 棘のみを計測した. 厚い鰭膜に埋没する腹鰭棘は実体顕微鏡の透過照明を用いて観察し計測した. 計測はデジタルノギスを用いて 0.01 mm 単位まで行い、小数第 2 位を四捨五入した. 標準体長 (standard length) は SL と略記した. なお、神奈川県立生命の星・地球博物館の資料番号は、電子台帳上では桁を埋めるための 0 を付加した 7 桁の数字が用いられているが、本稿では資料番号として本質的な有効



Fig. 1. Fresh specimens of *Parapercis randalli* from Japan. A: ZUMT 67167, Kii Peninsula, photo by R. Matsuo; B: KPM-NI 79454, Ishigaki-jima island, photo by M. Fukatani; C: ZUMT 66701, Ishigaki-jima island, photo by H. Wada; D: KPM-NI 79455, Ishigaki-jima island, photo by H. Wada.

数字で表記した。

Parapercis randalli Ho and Shao, 2010

ホムラトラギス

(Figs. 1–2; Table 1)

標本 11 標本 (48.9–105.4 mm SL) — 紀伊半島 (和歌山県): ZUMT 66395, 85.6 mm SL, 串本町潮岬沖 (33°25′59″N, 135°44′41″E), 水深 60 m, 2023 年 10 月 22 日, 釣り, 織部啓三郎; ZUMT 67167, 105.4 mm SL, 串本町潮岬沖 (33°25′53″N, 135°44′44″E), 水深 70 m, 2023 年 11 月 25 日, 釣り, 松尾 怜. 石垣島 (沖縄県): ZUMT 66696, 82.4 mm SL; ZUMT 66697, 81.3 mm SL; ZUMT 66698, 74.2 mm SL; ZUMT 66699, 77.2 mm SL; ZUMT 66700, 70.0 mm SL; ZUMT 66701, 62.4 mm SL; ZUMT 66702, 61.1 mm SL; KPM-NI 79454, 48.9 mm SL; KPM-NI 79455, 83.4 mm SL, 石垣島東沖 (24°22′04″N, 124°19′25″E), 水深 120 m, 2024 年 1 月 6 日, 釣り, 深谷真央・棟方航平.

記載 計数計測値を Table 1 に示す. 体型は円筒形でやや細長い. 頭部はやや縦扁し, 体後方へ向かうにつれて強く側扁する. 体高は腹鰭基部から肛門にかけての範囲で最大となる. 下顎先端は上顎先端よりも突出する. 口はやや上向する. 主上顎骨後端は眼窩前端の直下を越えるが, 瞳孔の中央直下に達しない. 下顎前方に 4–6 本の犬歯状歯があり, 後方へ向かうにつれて大きくなる. 下顎の犬歯状歯の内側と後方には小さな円錐歯からなる歯帯がある. 鋤骨歯は頑強で, 円弧状に一列に並ぶ. 口蓋骨に歯を欠く. 主鰓蓋骨の中央部は後方に鋭く尖る. 体の大部分が櫛鱗に覆

われるが, 吻, 唇部, 項部, 眼隔域, 眼後方, 尾鰭を除く鰭部, 尾鰭の後方は無鱗. 鼻孔は 2 対. 眼は大きい. 側線は連続した 1 本のみで, 鰓蓋の開孔部上端付近に開始し, 胸鰭付近にかけてやや上昇し, 後半は緩やかに下降しつつ体側中央を尾鰭基部まで直線的に貫く. 背鰭は 1 基で基底は長い. 背鰭始部は胸鰭基部の直上に位置し, 背鰭棘は第 4 棘が最長. 背鰭軟条部の高さはほぼ一定. 尾鰭は截形で, 上端が伸長するが, 小型個体では伸長せずやや尖るのみの場合がある. 尾鰭後縁中央はごくわずかに湾入し, 下端にかけて丸く膨らむ. 臀鰭の高さはほぼ一定. 腹鰭棘は非常に小さく, 腹鰭前縁部の肥厚した鰭膜に深く埋没する. 腹鰭と胸鰭はほぼ同長.

色彩 生鮮時 (Fig. 1) — 体側に幅広な赤橙色の鞍状斑が 5 個並び, 胸鰭基部下 (最前方) の 1 個を除いた 4 個は V 字ないし Y 字状となる. これら 5 個の鞍状斑の上方は赤褐色. 4 個の V (Y) 字鞍状斑の間には, 側線の下方に幅の狭い赤橙色斑がある. 腹面は頤部から尾柄付近まで白色. 上下の唇部は桃色. 眼前方の虹彩から吻にかけて薄い黄色. 眼の下部, 主上顎骨後端付近に小さな淡赤色斑があるが, 個体によっては目立たず縁のみが薄く現れる場合もある. 眼下から前鰓蓋骨下端付近まで赤色で縁取られた黄色あるいは淡赤色の斜走帯がある. 眼の直後に黄色または黄褐色で縁取られた黒色点か 0–2 個上下に並び, 黒色点がない場合にも黄色斑は発現する. また, 黒色点が 1 個のみの場合は下方に発現する. 鰓蓋上方にも黄色で縁取られた黒色点か上下に 1–2 個並び, 胸鰭の前方に黄色または赤色の領域が存在する. 胸鰭基部に三日月状の黄色斑がある. 背鰭第 3 棘より前方の鰭膜の基部付近は褐色あるいは濃赤色を呈する. 背鰭棘部の鰭膜の先端は白色, その直下に赤

色の小帯があり、これより下方の鰭膜は淡黄色。背鰭軟条部の鰭膜の地色は半透明の淡黄色で、基底側から縁辺に向かって順に赤色、クリーム色、水色の点列があるが、赤色点列は発現しない場合や鰭膜の後半部のみで発現する場合 (Fig. 1A) もある。一部の個体では赤色点列の直上に暗色点列が現れる (Fig. 1A, D)。尾鰭基部に上下に2個の赤橙色あるいは赤褐色斑があり、上方の斑に重なって黒色点が存在する場合がある。尾鰭は半透明の淡黄色で、中央付近に0–5個の濃赤色ないし黒色の点が上下に並ぶ。この点がない場合にも、点が発現しうる領域は黄色を呈する (Fig. 1C)。尾鰭上端の伸長部は地色と同じか、やや暗色。尾鰭縁辺の中央から下方にかけてはやや暗色で、ここに濃赤色か黒色の斑が発現する場合がある (Fig. 1A)。臀鰭は半透明の淡黄色で、クリーム色の点列が並び、その直下に淡い桃色の領域があるが、小型個体では不明瞭な傾向にある。胸鰭は一樣に無色半透明。腹鰭は乳白色で、大型個体では中央付近がわずかに黄色を呈する。

固定時 (Fig. 2) —全体にクリーム色。生鮮時、体側に現れていた5個の鞍状斑は腹側の約3分の2の部分の色が消失し、背側のみ暗色鞍状斑として残る。個体によってはこの暗色鞍状斑の上に微小な黒色点が点在する。頭部は一樣にクリーム色で、生鮮時、眼の後方あるいは鰓蓋上方に黒色点が現れていた個体はその部分に黒色点が残る (生鮮時に黒色点がなく黄色斑のみが現れていた部分は固定後、色が消失する)。背鰭棘条部は無色半透明で、前方に暗色部がある。背鰭軟条部は無色半透明で、生鮮時、赤色点列の直上に暗色点列が現れていた個体は固定後も暗色点列が残る。赤色、クリーム色、水色の点列はすべて消失する。尾鰭は無色半透明で、中央に0–5個の黒色点が上下に並ぶ。個体により尾鰭上端の伸長部や尾鰭後縁が暗色となる。生鮮時、尾鰭基部の2個の赤橙色斑上に暗色点が存在していた個体は、固定後も暗色点のみが残る。腹鰭および胸鰭は無色半透明。

分布 和歌山県南部、鹿児島県内之浦湾、口永良部島、

Table 1. Counts and measurements of *Parapercis randalli*.

	Wakayama Pref. (<i>n</i> = 2)	Ishigaki-jima island (<i>n</i> = 9)
SL (mm)	85.6–105.4	48.9–83.4
Measurements (% of SL)	Range	Range (mean)
Body depth at anal fin origin	19.0–19.3	16.6–22.3 (18.6)
Body width	17.9–18.8	17.7–18.8 (18.2)
Head length	29.5–30.3	30.9–32.9 (32.0)
Snout length	10.5–10.8	19.5–11.5 (10.3)
Orbit diameter	7.9–8.5	8.8–10.2 (9.7)
Interorbital width	4.7–5.5	3.7–5.1 (4.6)
Upper-jaw length	13.0–13.3	10.4–14.5 (13.0)
Caudal-peduncle depth	8.7–9.0	7.9–9.7 (8.6)
Caudal-peduncle length	8.1–9.0	8.3–10.2 (8.8)
Predorsal length	27.3–30.6	30.6–34.1 (32.1)
Preanal length	48.0–50.3	48.3–51.7 (50.3)
Prepelvic length	26.6–27.4	25.8–30.3 (28.1)
Dorsal-fin base	60.8–63.3	57.9–63.4 (60.4)
Fourth dorsal-fin spine	6.1–6.5	5.5–8.4 (6.7)
Longest dorsal-fin soft ray	11.6–12.9	12.2–14.2 (13.1)
Anal-fin base	42.2–44.5	40.6–43.0 (42.0)
Anal spine	4.2–4.9	4.2–6.5 (5.4)
Longest anal ray	11.9–12.0	11.6–14.4 (12.5)
Caudal-fin length	22.5–24.3	21.7–24.5 (23.4)
Pectoral-fin length	19.9–20.9	19.9–22.9 (21.6)
Pelvic-spine length	5.7–10.1	4.9–10.0 (7.0)
Pelvic-fin length	19.0–21.6	20.7–26.1 (22.7)
Counts	Value (Frequency)	Value (Frequency)
Dorsal-fin rays	V, 21 (2)	V, 20 (2), 21 (7)
Anal-fin rays	I, 17 (2)	I, 17 (9)
Pectoral-fin rays	17 (1), 18 (1)	18 (8), 19 (1)
Branched caudal-fin rays	14 (1), 15 (1)	14 (1), 15 (8)
Lateral-line scales	53 (2)	52 (5), 53 (3), 55 (1)
Scales above first lateral-line scale to origin of dorsal fin	5 (2)	5 (6), 6 (3)
Scales above uppermost lateral line	3.5 (1), 4.5 (1)	3.5 (1), 4.5 (8)
Scales below lateral line	13 (1), 14 (1)	11 (1), 12 (1), 13 (5), 14 (2)
Median pre-dorsal-fin scales	6 (1), 7 (1)	6 (1), 7 (7), 8 (1)
Circumpeduncular scales	22 (1), 24 (1)	23 (1), 24 (8)
Gill rakers on 1st Gill arch	3+10 (1), 4+11 (1)	4+10 (1), 4+11 (3), 4+12 (1), 5+10 (1), 5+11 (3)



Fig. 2. Preserved specimen of *Parapercis randalli*. ZUMT 67167, Kii Peninsula, Japan (photo by M. Fukatani).

奄美大島，与論島，沖縄県（詳細な地点は不明），石垣島および台湾南部（藤山，2004; Ho and Shao, 2010；日比野ほか，2013；松沼ほか，2017；木村ほか，2017; Ho, 2019；佐藤ほか，2023；本研究）。

近縁種との比較 Ho (2015) は下記の形質を併せもつトラギス属魚類を1つの種群とみなした：体色は赤色を基調とする；体側背側に5–8個の鞍状斑がある；側線有孔鱗数が50–58；背鰭鰭条がV, 21；背鰭棘は第4棘が最長；背鰭棘条部と軟条部の間が鰭膜によって完全に繋がる；臀鰭鰭条がI, 17；胸鰭軟条数が17；口蓋骨歯を欠く；鋤骨歯が1列に並ぶ；下顎前方に3–4対の犬歯状歯がある；吻長が眼径と同程度；眼窩間はやや広い；尾鰭上葉先端が伸長する傾向にある。この種群にはHo (2015) が示した17種 [*P. albipinna* Randall, 2008；セホシトラギス *P. basimaculata* Randall et al., 2008; *P. bicoloripes* Prokofiev, 2010; *P. colemani* Randall and Francis, 1993; *P. compressa* Randall, 2008; *P. flavolabiata* Johnson, 2006; *P. flavolineata* Randall, 2008; *P. johnsoni* Ho, 2015；オガサワトラギス *P. katoi* Randall et al., 2008；ヤマユリトラギス *P. kentingensis* Ho et al., 2012; *P. punctata* (Cuvier, 1829)；ホムラトラギス *P. randalli* Ho and Shao, 2010; *P. rubromaculata* Ho et al., 2012; *P. rufa* Randall, 2001; *P. sagma* Allen and Erdmann, 2012; *P. shaoi* Randall, 2008; *P. somaliensis* Schultz, 1968] に加え，上述の特徴を備えることから *P. annamalai* Yosuva et al., 2020, *P. caudopellucida* Johnson and Motomura, 2017, *P. flavipinna* Johnson and Motomura, 2017，および *P. soliorta* Johnson and Motomura, 2017 の4種も内包されるものと考えられる (Johnson and Motomura, 2017; Yosuva et al., 2020)。

この種群の構成種のうち，体側背側に5個の幅広い鞍状斑があり，固定後もその上方に暗色が残る，かつ体側中央から腹面にかけての領域に暗色斑がない種は *P. colemani*，オガサワトラギス，ヤマユリトラギス，ホムラトラギス，*P. rubromaculata*，*P. rufa*，*P. shaoi* の7種であ

る (Randall and Francis, 1993; Johnson, 2006; Randall, 2008; Randall et al., 2008; Prokofiev, 2010; Ho et al., 2012; Allen and Erdmann, 2012; Ho and Causse, 2012; Ho, 2013; Johnson and Motomura, 2017; Johnson and Wilmer, 2018; Yosuva et al., 2020)。このうち *P. colemani* とオガサワトラギスの2種が色彩のパターンにおいてホムラトラギスに最も類似する。ホムラトラギスは下記の特徴によりこれら2種から識別される：側線有孔鱗数が52–55（通常52か53）（*P. colemani* では57か58；オガサワトラギスでは56–58）；側線起点から背鰭基部までの横列鱗数が5–6（*P. colemani* とオガサワトラギスではともに8）；尾柄周鱗数が22–24（通常24）（*P. colemani* とオガサワトラギスではともに29）；体側の鞍状斑上に顕著な黒色点はない（オガサワトラギスでは各鞍状斑上に2個ずつ黒色点がある）；尾鰭中央に明瞭な黒色点（列）がある〔黒色点をもたない場合もある，後述〕（*P. colemani* では尾鰭に黒色点はない；オガサワトラギスでは尾鰭に模様はないか，中央前下方に微小な黒色点がある程度）；生鮮時，胸鰭基底に三日月状の黄色斑がある（オガサワトラギスでは胸鰭基底に楕円状の赤色斑がある） (Randall and Francis, 1993; Johnson, 2006; Randall et al., 2008；本研究)。ただし，胸鰭基底の色彩についてはオガサワトラギスに同定されるものの胸鰭基底に明瞭な赤色斑がない個体も確認されており (KPM-NI 59656)，同定に際しては複数の識別的特徴により総合的に判断する必要がある。続いて，ホムラトラギスは下記の特徴によりヤマユリトラギス，*P. shaoi*，および *P. rubromaculata* から識別される：尾鰭に横帯はなく中央付近に0–5個の黒色点がある〔ヤマユリトラギスと *P. shaoi* では尾鰭に複数の横帯（固定後も消失しないと考えられる）があり黒色点はない；*P. rubromaculata* では尾鰭に多数の赤色斑点（固定後は消失する）があり黒色点はない〕；鰓蓋上方に黒色点がある（ヤマユリトラギスと *P. shaoi* では大きな黒色斑がある；*P. rubromaculata* では黒色点も黒色

斑もない) (Ho et al., 2012; Johnson and Wilmer, 2018; 松尾ほか, 2018; 本研究). 最後に, ホムラトラギスは下記の形質により *P. rufa* から識別される: 背鰭棘条部前方に黒色斑がある (*P. rufa* では背鰭棘条部に黒色斑はない); 尾鰭中央付近に 0–5 個の黒色点がある (黒色点はない); 胸鰭の上方に黒色斑はない (黒色斑がある); 生鮮時, 体側の鞍状斑は側中線を超えて下方 (腹側) まで達する (体側の鞍状斑は側中線より上側のみに存在し, 腹側には赤色斑が列をなす) (Ho and Causse, 2012; 本研究).

備考 記載標本は既報で述べられている下記の識別的特徴を併せもつことが Ho and Shao (2010), 日比野ほか (2013) および松沼ほか (2017) の示したホムラトラギス *P. randalli* の特徴とよく一致したため, 本種に同定された: 生鮮時, 体側に 5 個の幅広い赤褐色鞍状斑がある; 両顎と吻が赤みを帯びる; 頬部に赤く縁取られた黄色ないし淡赤色の斜走帯がある; 鰓蓋上方に濃褐色点ないし黒色点がある; 尾鰭に横縞模様がない; 口蓋骨歯を欠く; 鋤骨歯は頑強で円弧状に 1 列並ぶ; 背鰭は第 4 棘が最長; 尾鰭上葉の先端はわずかに伸長し, 下葉は丸みを帯びる. しかし, 本研究において観察した標本のうちいくつかには, 前述の 3 報において示された形態的特徴と異なった下記の特徴をもつものが認められた: 眼後部 (隣接する鰓蓋上方を含まない) に黒色点がない (既報の識別的特徴では黒色点がある); 尾鰭中央の黒色点がない (黒色点がある); 下顎前方に並ぶ犬歯状歯が 4 本 (5–6 本); 側線有孔鱗数が 55 (52–53). さらに, 各鰭の軟条数, 各部の鱗数, 鰓耙数についても既報のホムラトラギスの記載の範囲を逸脱する個体がみられたが (Table 1), 同程度の変異は同属他種 (例えば *P. algrahami* Johnson and Wilmer, 2018) でも確認されていることから, 種内変異とみなすのが妥当であると判断された. ところで, ホムラトラギスの識別的特徴に関わる各部の黒色点の発現有無には個体差があることを先に述べたが, 黒色点が実際に発現するかどうかに関わらずその場所には黄褐色点が発現する, すなわち, 黄褐色点は決まった位置に常に発現しており, 黒色点が発現する場合にはその上の上に現れることが記載標本の観察から示唆された. 例えば今回, 尾鰭にまったく黒色点がない標本が得られた (Fig. 1C) が, 本来黒色点が発現する尾鰭中央部には薄く 2–3 個の黄褐色点が発現しているのが確認された. Ho and Causse (2012: fig. 1A) からは *P. rufa* の尾柄上部の黒色点の周囲に朱色の縁取りが見てとれ, こうした黒色点の発現パターンは Ho (2015) の定義した種群において共通する可能性が考えられる.

和歌山県産の標本と同所的に以下の種が釣獲された: ホシノエソ *Synodus hoshinonis* Tanaka, 1917 (ZUMT 66398); バラハナダイ *Odontanthias katayamai* (Randall et al., 1979) (ZUMT 66402); イッテンサクラダイ *Odontanthias*

unimaculatus (Tanaka, 1917) (ZUMT 66399, 66400); キオビイヅハナダイ *Plectranthias sheni* Chen and Shao, 2002 (ZUMT 66459, 66560); サクラダイ *Sacura margaritacea* (Hilgendorf, 1879) (ZUMT 66396, 66397); ヤマユリトラギス (ZUMT 66394). 石垣島産の標本と同所的に他種は得られなかった. なお, 石垣島産の 9 標本はすべて同一地点で短時間のうちに釣獲されたものであることから, 本種は 10 匹前後あるいはそれ以上の規模の群れを形成することが示唆される. 日比野ほか (2013) は本種と同所的に採集された魚種の生態的特徴から, 本種は岩礁や砂礫底に棲息する可能性が高いことを指摘している. 一方, 佐藤ほか (2023) は本種を「砂地に生息するトラギス科の一種」として紹介している. 本研究に用いられた標本のうち, 和歌山県産標本が採集された地点は岩礁混じりの砂底, 石垣島産標本では砂礫底であることが魚群探知機の画像をもとに推測された. 本種が採集された水深は潮岬沖で 60–70 m, 内之浦湾で約 40 m, 奄美大島と与論島で約 100 m, 沖縄 (詳細不明) で約 150 m, 石垣島で約 120 m である [タイプシリーズである台湾産標本については水深 5–150 m より採集された旨が原記載中に記されているが, これらは市場で購入されたものであり詳細な水深が不明のため広範囲の水深帯が示されているものと推察される] (Ho and Shao, 2010; 松沼ほか, 2017; 佐藤, 2023; 本研究). 以上を総合すると, 本種の棲息環境は岩礁域に点在する砂底あるいは砂礫底で, 水深 40–150 m ほどの海域であると考えられる.

本種が得られた紀伊半島沖のトワイライトゾーン [水深約 30–150 m ほどの海域 (Lesser et al., 2009; Baldwin et al., 2018)] からは近年, 国内での記録が乏しいツキヒハナダイ *Symphysanodon typus* Bleeker, 1877 (饗場・遠藤, 2024) や日本初記録のエンビサクラダイ *Odontanthias randalli* White, 2011 (松尾ほか, 2024) が記録されており, この海域の生物相に関する知見が徐々に蓄積されつつある. トワイライトゾーンの生態系に関して, および日本近海の生物地理に関して理解を深めるためにも, 今後も本海域における継続的な調査が望まれる.

参照資料 オガサワトラギス (5 標本): KPM-NI 82, 小笠原諸島父島沖, 水深 140 m, 佐々木健一郎釣獲; KPM-NI 5387, 小笠原諸島弟島沖, 水深 130 m; KPM-NI 19545, 小笠原諸島父島沖, 水深 100 m, 森田康弘・佐々木健一郎釣獲; KPM-NI 59656, 小笠原諸島父島沖, 水深 95 m, 前田達郎釣獲; KPM-NI 75003, 小笠原諸島智島沖, 水深 120 m, 加藤 晃釣獲. ヤマユリトラギス (3 標本): KPM-NI 76939, KPM-NI 76946, 伊豆諸島御蔵島, 水深 60–90 m, 和田英敏・棟方航平・前田達郎・西川士朗釣獲; KPM-NI 80273, 相模湾東部, 水深 60–80 m, 加藤 晃釣獲.

謝 辞

かわばた渡船の川端秀樹船長，和歌山県立医科大学の伊豫巧朗氏には和歌山県での魚類調査にご協力いただいた。織部啓三郎氏には和歌山県産の標本を提供していただいた。南美丸の砂川正彦船長とそのご家族，ならびに神奈川県生命の星・地球博物館ボランティアの棟方航平氏には石垣島での魚類調査にご協力いただいた。中央大学の反甫将也氏には魚類調査および文献調査にご協力いただいた。東京大学総合研究博物館の藍澤正宏氏には標本借用の手続きに際し便宜を図っていただいた。担当編集委員の藤原恭司氏と匿名の査読者には本稿に対し有益なご助言をいただいた。以上の方々に深謝する。本研究は2023年度御蔵島観光協会海域調査研究助成金およびJSPS 科研費(24K16204)の援助を受けた。

引用文献

- 饗場空瑠・遠藤広光. 2024. 高知県と和歌山県から得られた北限記録を含むツキヒハナダイ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 40: 17–21. [URL](#)
- Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2012. Reef fishes of the east Indies. Vol. I–III. Tropical Reef Research, Perth. xiii + 1292 pp.
- Baldwin, C.C., L. Tornabene and D. R. Robertson. 2018. Below the mesophotic. *Scientific Reports*, 8: 4920. [URL](#)
- Fricke, R., W. N. Eschmeyer and R. Van der Laan (eds.). 2024. Eschmeyer's catalog of fishes: genera, species, references. [URL](#) (19 Sept. 2024)
- 藤山萬太. 2004. 私本奄美の釣魚. 奄美共同印刷, 奄美. viii + 181 pp.
- 日比野友亮・本村浩之・木村清志. 2013. 鹿児島県と論島から得られた日本初記録のホムトラギス (新称) *Parapercis randalli*. *魚類学雑誌*, 60: 129–34. [URL](#)
- Ho, H.-C. 2013. Redescription of *Parapercis punctata* (Cuvier, 1829) and status of *Neosillago* Castelnau, 1875 and its type species *Neosillago marmorata* Castelnau, 1875 (Perciformes: Pinguipedidae). *Zootaxa*, 3736: 291–299. [URL](#)
- Ho, H.-C. 2015. Description of a new species and redescription of two rare species of *Parapercis* (Perciformes: Pinguipedidae) from the tropical Pacific Ocean. *Zootaxa*, 3999: 255–271. [URL](#)
- Ho, H.-C. 2019. Family Pinguipedidae, pp. 1077–1089. In Koeda, K. and H.-C. Ho (eds.) *Fishes of southern Taiwan*. National Museum of Marine Biology & Aquarium, Pingtung.
- Ho, H.-C. and R. Causse. 2012. Redescription of *Parapercis rufa* Randall, 2001, a replacement name for *P. rosea* Fourmanoir, 1985, based on specimens newly collected from southern Taiwan. *Zootaxa*, 3363: 38–44. [URL](#)
- Ho, H.-C., C.-H. Chang and K.-T. Shao. 2012. Two new sandperches (Perciformes: Pinguipedidae: *Parapercis*) from South China Sea, based on morphology and DNA barcoding. *Raffles Bulletin of Zoology*, 60: 163–172. [URL](#)
- Ho, H.-C. and K.-T. Shao. 2010. *Parapercis randalli*, a new sandperch (Pisces: Pinguipedidae) from southern Taiwan. *Zootaxa*, 2690: 59–67. [URL](#)
- Johnson, J. W. 2006. Two new species of *Parapercis* (Perciformes: Pinguipedidae) from north-eastern Australia, and rediscovery of *Parapercis colemani* Randall & Francis, 1993. *Memoirs of Museum Victoria*, 63: 47–56.
- Johnson, J. W. and H. Motomura. 2017. Five new species of *Parapercis* (Perciformes: Pinguipedidae) from southeast Asia and northwest Australia. *Zootaxa*, 4320: 121–145.
- Johnson, J. W. and J. Worthington Wilmer. 2018. Three new species of *Parapercis* (Perciformes: Pinguipedidae) and first records of *P. muronis* (Tanaka, 1918) and *P. rubromaculata* Ho, Chang & Shao, 2012 from Australia. *Zootaxa*, 4388: 151–181.
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太. 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp. [URL](#)
- Lesser, M. P., M. Slattery and J. J. Leichter. 2009. Ecology of mesophotic coral reefs. *Journal of Experimental Marine Biology and Ecology*, 375: 1–8. [URL](#)
- 松沼瑞樹・山田守彦・本村浩之. 2017. 鹿児島県内之浦湾から得られたトラギス科ホムトラギス *Parapercis randalli* の分布北限記録および成長にともなう形態変化. *日本生物地理学会会報*, 71: 15–24.
- 松尾 怜・伊豫巧朗・James MacLaine・木村清志. 2024. 紀伊半島南部から得られた日本初記録のハナダイ科魚類 *Odontanthias randalli* エンビサクラダイ (新称). *魚類学雑誌*, doi: 10.11369/jji.24-027 (Sept. 2024).
- 松尾 怜・松沼瑞樹・本村浩之・木村清志. 2018. トラギス科魚類 ヤマユリトラギス (新称) *Parapercis kentingensis* の日本における記録. *魚類学雑誌*, 65: 27–34. [URL](#)
- Prokofiev, A. M. 2010. Two new species of fishes from families Muraenidae (Anguilliformes) and Mugiloididae (Perciformes) from the waters of Vietnam. *Journal of Ichthyology*, 50: 580–589. [URL](#)
- Randall, J. E. 2001. Family Pinguipedidae (= Parapercidae, Mugiloididae), pp. 3501–3510. In Carpenter, K. E. and V. H. Niem (eds.) *FAO species identification guide for fisheries purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 6. Bony fishes part 4 (Labridae to Latimeriidae), estuarine crocodiles, sea turtles, sea snakes and marine mammals*. FAO, Rome.
- Randall, J. E. 2008. Six new sandperches of the genus *Parapercis* from the western Pacific, with description of a neotype for *P. maculata* (Bloch & Schneider). *Raffles Bulletin of Zoology, Supplement*, 19: 159–178. [URL](#)
- Randall, J. E. and M. P. Francis. 1993. *Parapercis colemani*, a new pinguipedid fish from Norfolk Island, south-western Pacific Ocean. *New Zealand Journal of Marine and Freshwater Research*, 27: 209–214. [URL](#)
- Randall, J. E., H. Senou and T. Yoshino. 2008. Three new pinguipedid fishes of the genus *Parapercis* from Japan. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A, Supplement*, 2: 69–84. [URL](#)
- 佐藤圭一・金子篤史・高岡博子・東地拓生・宮本 圭・比嘉俊輝・中島遥香. 2023. 美ら海トワイライトゾーン 知られざる深海生物のワンダーランド. 産業編集センター, 東京. 271 pp.
- Yosuva, M., H.-C. Ho, D. Jeyapragash and A. Saravanakumr. 2020. *Parapercis annamalai* sp. nov., a new sandperch from southwestern India (Family Pinguipedidae). *Zootaxa*, 4786: 555–564.